

ビア海、ベンガル湾に在り、その他大きな生産的工業の建設に適する、
確かな商業的数量の場所が、更に海洋学的情報の適用と新知識の獲得、
その海と資源の理解を待っている。このことは部分的には、国際インド
洋調査、熱帯大西洋国際調査、その他100の国際海洋調査により与え
られる。

6. イワシ族を人間の直接に受けとれる、蛋白質にかえる科学と技術は、
複雑な生化学、処理技術、経済、衛生学及び社会学の問題を含む。
これらの問題をFAO, UNICEF, WHOで研究している。

7. 熱帯イワシ族の分類学的関係は余りわかっていない。開発されている
魚の資源力学研究に必要なストックのレベルよりずっと低くしか知られ
ていない。

(宇田道隆記)

19. 国連低開発地域の為の水産資源と生産(海洋漁業及び 内水面等)科学技術会議

(1962年12月11日)

同会議事務総長報告

主問題と発展 -- 一般

1. 2. 3. 4. 5. 6.	North Sea, Baltic Sea	Lake Victoria	Kovavirnde
	24 lb.	4 lb	per acre per annum
	Gulf, Lake Edward, Lake George	42, 55, 104 lb per	acre annually

20. 世界の魚のCatchは最近10年間以上にsteadyな、おそらく加速
的な生長率を示す。1957~61年の全世界の魚族生産高は

年産3,100万トンから4,100万トンに年々増加、すなわち約30%以上もこの間に増した。これは主に1-2国にすぐ近接し得る例外的に豊富な資源の強度を加えた開発と動物給餌の為のフィッシュ・ミールの実質的要求(漁獲の約1,000万トン)を反映する一方、長距離漁撈操業を反映、ある他の広域にひろがる。

これらは漁船と装備及び魚の加圧処理と保蔵に技術的進歩したことにより可能になった。対照としてインドは主に小さい操業単位を増し、もつと能率よく機械し、漁船漁具の改良することにより、世界生産のオ十位に向上した。

2.1. 必要な技術的熟練と器具が利用でき、市場が好都合な場所で、魚族生産高が急増した。

日 本	1945年	メートル	1961年	万トン	16年間
		200万トン		671,0500	3.4倍
ペル	〃	6.5 〃	〃	524,3000	80 〃
南阿と南西アフリカ	1948年	万 トン	〃	万 トン	13年間
		11,3000		99,0000	9 〃
イ ン ド	〃	万	〃	万 〃	〃
		53,0000		96,1000	約2 〃
チ リ ー	〃	4,8000	〃	万 〃	〃
				42,9000	9 〃

2.2. 技術改良により、人類栄養上の魚類消費増加の impact は莫大なものになるといえる。

2.3. 2.4. 2.5. 水産学者は魚の運動と魚類資源の理解の為、新しい資源の見透しに海洋学情報のある極小を必要とする(例えば貿易風と発散の効果) 研究所、^[ソ連]調査船の幹部、装備
インド洋、ギネア湾、南大西洋の例。

(宇田道隆記)